
断片物語

乃神 夢亜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

断片物語

【ΖΖΓード】

Ζ8886Y

【作者名】

乃神 夢亜

【あらすじ】

物語を書こう。今を閉じ込めるために。夢でもいい。失いたくないから。

始まり

お話を書いひ。鉛筆でノートに。

今を無くさないよう、閉じ込めてしまおひ。
失つことが怖いのなら、嘘でもいいから夢を見せて。

幻想だなんて、虚構だなんて、嫌がらないで。
其れを君が信じるのなら、嘘だつて本当になるぞ。
だつて、其れが君の真実となるのだから。

貴方の真実なんて脆いモノよ。

だつて、それは事実ではないでしょ？

貴方だけの世界なんて、すぐに壊れる。

世界が壊れたら、作り直せばいい。
夢なんて何度も描けるのだから。
夢だと認めてしまえば、楽になる。

少女

友達が欲しかったから、ただそれだけ。
それだけだったの。なのに……

『いろいろな声がするの?』
『直さないといけないね』
『その子たちが言つの?』

……なんで? なんで、そんなことを言つの?
悪く言わないで、優しいの。優しいの……。

ねえ、頭の中で呟き話すのは、おかしいんだって
楽しいのにね、心配するの。どうしてかなあ?

「だから言つたのに」

うん。そうだね。貴方は言つてた。

「楽しいのにね、ダメなんだ?」

そうダメなんだって。

「アレがダメだったんじゃない?」

うん。あれ(リストカット)がダメだったんだ。
私は、別にどうだって良かつたんだけど。

「お前は、だる?」

…… そうだね。私は、どうでも良かった。

シャツ

剃刀のキャップが擦れて音を立てる。
銀色の刃が光を反射して綺麗。

グリッ……

手首に押し付けるように刃を当てる。
しばらくして、歯を退けると赤く痕が残った。
指で広げるようにして、そこを引っ張る。
白いソレは、しづらへると赤く染まり、ジワリと液体が滲んだ。

その液体が手首から落ちる前に、絆創膏をはり、上着を羽織る。
剃刀を机の中にしまって、ノミを捨て、近くにあった本を手に取る。

「ノミ飯よーーー

下から母の声がある。

「はーーーーーーー

明るい声で返事をし、下へ降りる。
いつも通り、いつも通り……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8886y/>

断片物語

2011年11月26日19時47分発行